

# 日常的な安全指導における 一声(ひとこえ)事例

## 【安全教育の目標】

日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

安全教育で  
身に付ける力

危険を予測し回避する能力と、  
他者や社会の安全に貢献できる資質や能力の育成

生活  
安全

交通  
安全

災害  
安全

## 安全教育の3領域

## 【安全教育の推進に向けて】

このシートは「安全教育プログラム（第17集）」（令和7年3月東京都教育委員会）の「必ず指導する基本的事項」に基づき、指導の際に参考となる「一声」をまとめたものです。安全教育の3領域「生活安全」、「交通安全」及び「災害安全」について掲載しています。

近年全国各地で発生している風水害や、近い将来起こりうる首都直下地震等の自然災害の状況、交通事故、犯罪等の社会的な情勢の変化など新たな課題も顕在化している状況があります。幼児・児童・生徒の安全対応能力を一層高められるよう、上記に示す3領域の安全について日頃から意識し、安全教育に取り組む必要があります。

このシートは、短い時間で確実に指導を実施する際に活用していただくことをねらいとしています。朝の会や帰りの会、避難訓練等の短時間での取組において、「一声」指導を実施し、幼児・児童・生徒の危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力の育成を積極的かつ継続的に推進して下さるようお願いいたします。

令和7年3月

 東京都教育委員会

# 一声(ひとこえ)事例チェックシート

## 【I 生活安全】

Check

登下校時の安全	1-① 家の近くの友達と一緒に登下校しましょう。	
	1-② いざというときに鳴りますか。出かける前に確かめましょう。	
	1-③ 通学路で、危険な場所があるか、お家の人と確認しておきましょう。	
	1-④ 車内に不審な人がいたら、その場から離れましょう。	
校内での安全	2-① 机の横には荷物は1個。人がスムーズに通れるようにしましょう。	
	2-② 遊ぶときは、その場所でのきまりを守って遊びます。なぜでしょうか。	
	2-③ 使った道具は、決められた場所に整頓して片付けましょう。	
	2-④ 出入り口から人が飛び出してくることがあるから、気を付けましょう。	
	2-⑤ 『〇〇』の放送が流れたら、不審者が学校に入ってきた合図です。	
	2-⑥ 放送が鳴ったら、『ピタッ』と話と動きを止めましょう。	
	2-⑦ 自分や友達を守るために、めあてをもって参加しましょう。	
家庭生活での安全	3-① 誰もいない家に帰っても、『ただいま』と大きな声で言いましょう。	
	3-② 留守番のときの約束を、お家の人と決めておきましょう。	
	3-③ 乗ったときには、どんなことに気を付けるとよいでしょうか。	
	3-④ 非常階段や屋上に一人で行っていませんか。人目につきにくい所には、どんな危険があるでしょうか。	
	3-⑤ 知らない人から名前や電話番号を聞かれても、答えなくて、必ずお家の人や先生に伝えましょう。	
地域や社会生活での安全	4-① 繁華街など一人では行ってはいけない場所について、家族と話しましょう。	
	4-② 地域安全マップを見て、危険な場所を確認しましょう。	
	4-③ 知らない大人に誘われたら、その場から離れましょう。	
	4-④ 登下校時に『子供110番の家』のステッカーが貼ってある場所を探してみましょう。	
	4-⑤ 暗くなると危険がいっぱい。夕焼けチャイムで帰りましょう。	
	4-⑥ 事件、事故を見かけたら、周りの大人に伝えましょう。	
	4-⑦ 地域で、見回りをしてくださっている方が身近にいますか。	
	4-⑧ 海や川では、泳ぎが得意な人でも溺れてしまうことがあります。ライフジャケットを着用しましょう。	
スマートフォン等の使用時の安全	5-① スマートフォン等の使用ルールをお家の人と決めましょう。	
	5-② スマートフォン等にパスワードを設定することはとても大切です。	
	5-③ 顔や表情が見えないときこそ、相手の気持ちになって考えてみるのが大切です。	
	5-④ 会ったことのない知らない人には、簡単に個人情報を教えないようにしましょう。	
	5-⑤ 写真・動画を勝手に撮影したり、勝手にいろいろな人に送ったりしてはいけません。	
	5-⑥ しっかり前を見て、周りの危険に注意しながら歩きましょう。	
生命(いのち)の安全教育	6-① 水着で隠れる部分は、『プライベートゾーン』と言います。	
	6-② 自分の体を触れられてびっくりしたり、嫌な気持ちになったりしたときは『イヤだ』とはっきり伝えましょう。	
	6-③ 『変だな、嫌だな』と思う人には、ついて行ってはいけません。	
	6-④ 触られて嫌な気持ちになった時は、安心できる大人に相談しましょう。	

◆指導したら、Checkしましょう。

◆他の一声事例は「安全教育プログラム 第17集(令和7年3月)」(P.76~P.91)に収録しています。

◆学校や地域の実情に応じた「一声事例」を考えてみることも、おすすめです！

## 【Ⅱ 交通安全】

Check

道路の歩行と横断 及び交通機関の利用	1-① ガードレールや白い線の中を歩きましょう。	
	1-② いつもは車が来ない道も、『今日は来る』と思って歩きましょう。	
	1-③ 交差点では右折・左折してくる車やバイクがあります。横断中も車やバイクの動きに十分注意して渡りましょう。	
	1-④ 歩行者用信号が青になっても、左右、前方を確認し、車が信号で、止まっていることを確認してから渡りましょう。	
	1-⑤ 雨や雪の日には、道路が滑りやすくなります。どうやって歩くとよいですか。	
	1-⑥ 日が暮れてからは、明るい色の服や反射材の付いている靴などを意識して身に付けましょう。	
	1-⑦ みんなで道を歩くときは、どんなことに気を付けますか。	
	1-⑧ 踏切で事故が起こりそうなとき、非常ボタンを使って、危険を知らせることができることを知っていますか。	
	1-⑨ 他の人の危険に気が付いたら、『危ないですよ』と声を掛けましょう。	
	1-⑩ 降りる人が降りてから、順番に乗りましょう。	
自転車の安全な利用 と点検・整備	2-① 自転車で歩道を渡るとき、気を付けることは何ですか。	
	2-② 反射材を、知っていますか。	
	2-③ 小学生が自転車を運転するとき、道路をどのように走ればよいですか。	
	2-④ 自転車を点検するところ、『ブタハシャベル』を思い出しましょう。	
	2-⑤ 自転車に乗っていても、加害者になることがあります。	
	2-⑥ 自転車に乗るときにヘルメットをしていないと、どんな危険があるのでしょうか。	
二輪車・自動車の 特性と心得	3-① スピードが出る乗り物に乗るということは、安全確認する時間がそれだけ短くなるということです。	
	3-② 自転車に乗るときはヘルメットをかぶりましょう。	
	3-③ 乗用車がぶつからずに曲がったとしても、トラックのような大きい車はぶつかることがあります。それはどうしてでしょう。	
交通事故防止と安全 な生活	4-① 自転車講習会など、身近な地域で行われている交通安全について調べてみましょう。	
	4-② 目の前で交通事故が起こりました。何をしたらよいですか。	
	4-③ 体を何かにぶつけてしまったら、ぶつめた部位を冷やしましょう。	
	4-④ 交通事故から自分の命を守るために、どんなことに気を付けますか。	

◆指導したら、Checkしましょう。

◆他の一声事例は「安全教育プログラム 第17集（令和7年3月）」（P.76～P.91）に収録しています。

◆学校や地域の実情に応じた「一声事例」を考えてみることも、おすすめです！

### 【Ⅲ 災害安全】

Check

火災時の安全	1-①	〇〇で火事が起こった場合は、どのように避難しますか。	
	1-②	火事の恐ろしいところはどんなところでしょう。	
	1-③	落ち着いて行動することが安全な避難につながります。	
	1-④	火事を見かけたら、近くの大人に知らせましょう。	
地震災害時の安全	2-①	自分が生活する場所で、物が『落ちてこない、倒れてこない、移動してこない（おたい）』場所はどこか、探しておきましょう。	
	2-②	外で地震が起こった場合、どのように身を守りますか。	
	2-③	『おかしも』の約束を言ってみましょう。	
	2-④	教室で、大きな地震が起こったとき、落ちてきそうなもの、倒れてきそうなもの、移動してきそうなものは何でしょうか。	
	2-⑤	いざというときの非常持ち出し袋リストを作りましょう。	
火山災害時の安全	3-①	移動教室や家族旅行の時に火山が噴火したら、どこへ避難すればよいでしょう。避難の仕方でも火災や地震と同じところはどこでしょう。	
	3-②	日本は、火山列島です。伊豆大島噴火、三宅島噴火、富士山噴火について調べてみましょう。	
気象災害時の安全	4-①	これから雨や風が強くなりそうなときは、外に出ません。	
	4-②	雷鳴が聞こえてきました。どこへ避難すればよいでしょうか。	
	4-③	竜巻の発生に気付いたら、近くの頑丈な建物に避難しましょう。	
	4-④	雪道では、どのようなことに気を付けて歩けばよいでしょうか。	
	4-⑤	雪が積もった後、屋根の雪が落ちてくる可能性があります。	
	4-⑥	台風が近付いているときは、お家の人と防災グッズを確認しましょう。	
原子力災害時の安全	5-①	原子力災害による体への影響を知りましょう。	
避難所の役割と貢献	6-①	学校が避難所になった場合について考えてみましょう。	
	6-②	避難所に行ったとき、小学生でもできることはないでしょうか。	
	6-③	被災した方々は、普段どおりの生活を送ることができません。私たちにできることは何でしょう。	
	6-④	防災備蓄倉庫の備蓄品について知りましょう。	
災害への備えと安全な生活	7-①	防災頭巾(ヘルメット)を、自分で素早くかぶれるように練習しましょう。	
	7-②	災害でお家の人と離れてしまうことがあります。どうしたらよいか、事前に確認しておきましょう。	
	7-③	災害に備えて、お家の人と一緒にできることは何でしょうか。	
	7-④	身近にある物でできるけがの手当や止血法を考えてみましょう。	
	7-⑤	消防や警察には、どんな役割があるのか、調べてみましょう。	
	7-⑥	消防団は、どのような人たちが集まって何をしているのでしょうか。	
弾道ミサイル発射時の安全	8-①	ミサイルが飛んでくるときには『Jアラート』が知らせてくれます。	
	8-②	『Jアラート』が流れたら、近くの建物に逃げましょう。	

◆指導したら、Checkしましょう。

◆他の一声事例は「安全教育プログラム 第17集（令和7年3月）」(P.76～P.91)に収録しています。

◆学校や地域の実情に応じた「一声事例」を考えてみることも、おすすめですよ！